

発行：日立製作所労働組合 政瀨
 〒136 0071 東京都江東区亀戸9 3
 編集：日立グループ議員団会議
 2006年5月 No.42

日立グループ
 議員団だより

日立グループ議員団活動方針（議員団の心得5原則）

- 1.日立グループ議員団の一員であることの自覚を常に堅持すること。
- 2.政治活動は、日立グループ連合、日立労組の運動方針を基本とすること。
- 3.電機連合をはじめ、支援組織との連携に努力すること。
- 4.住民との対話を深め、地域活動を活発に展開すること。
- 5.常に研鑽に励み、清潔な姿勢を貫き、住民の信頼を高めるようにつとめること。

ホームページアドレス: <http://www.hitachi-gr-giindan.jp/>

「格差社会」の弊害を是正する

小沢新代表 を先頭に 「働く人が報われる公正な社会」の実現へ



▲民主党小沢新代表

4月8日（金）、午後3時から両院議員総会で、民主党代表として、新たに小沢一郎氏が選任されました。小沢一郎新代表は、「国民からの信頼を回復し、政権交代を実現するために力いっぱいがんばります」と挨拶されました。

また、小沢一郎新代表は、代表選挙の立候補演説の中で「日本は今、でたらめな小泉政治の結果、屋台骨が崩れて迷走を続けている。立て直すには明確な理念と設計図が不可欠だ。理念は共生。人間と人間の共生は平和の問題。自然との共生は環境問題。両面で日本がリーダー役を果たさなければならぬ。小泉政治は、



日立グループ議員団会議会長
 衆議院議員 大島 章宏

「理念は共生」小沢代表の感動的な演説

自由と身勝手な混同し、弱肉強食の格差社会を生んだ。民主党の目指す社会は、黙々と働く人、努力する人、正直者が報われる公正な社会だ。「明日のため、子供たちのため、私自身を、民主党を改革しなければならぬ。まず、私自身が変わらなければならぬ。民主党を改革し、日本を改革しよう！」

「民主党に期待」森田氏の激励に全力を誓う

さて、先日、森田美氏の講演をお伺いする機会がありました。森田氏は、「国の無駄使いなどのつけを、まじめに働くサラリーマンに2兆円増税して払わせる愚を、民主党に一扫してもらいたい。医療制度改革による老人医療費の値上げも一方的だ。イラクの大量

▼講演された森田美氏



この戦いに政治生命のすべてを賭し、目標に邁進し続けること約束する」と締めくくりました。この小沢一郎氏の演説は会場内に大きな感動を与えました。これから、残りの国会で小沢一郎代表を先頭に、「小泉改革」による「格差社会」の弊害の是正に全力でがんばります。皆さんどうぞよろしくお願いたします。

破壊兵器も見つからず、ブッシュ大統領とブレア首相は国民に詫言いが、小泉総理は一切謝っていない。これも大問題。参議院選挙で、民主党は明確な対立軸を示すべき。国際政治は、文明の衝突の現状から、和の世界に導く必要がある。小泉改革は、これまでの日本の良さを否定し、アメリカ流の経済の仕組みを取り入れ、中央と地方、大企業と中小企業、富む人と貧しき人の格差を拡大させている。財政だけの国家再建はありえない。日本は今、儒教の教えを

幹事長の主張



日立グループ議員団幹事長
 横浜市議会議員（ソフト支部）
 松本 敏

恥ずかしいという感覚を忘れつつある日本

最近、日本人の品格について国内外で話されています。昔に比べて悪くなったことが論点となっています。日本の文化は、枠だけ決めておいて中は融通無碍にする政治風土や、一生懸命に働き、世話になった人や地域に恩返しをする生き方や、あの人はいろいろな問題があるけれど最後の点ではこういうことは絶対にしていられないという信頼感を持つ文化だと思います。

また、単一民族のせいもあって政治がわからない民族であるとも言われます。厳しさが足りなく世界の動きに無頓着であることなどを指しているものと思われまます。恥ずかしいという感覚を大切に自らを律していたという良い精神文化もありました。

ユーモアで品格を磨き

恥を知る文化の見直しを

日本が品格を保つために

さて、これから先のことでありますが、多くの国民は平凡に生きられたら良いと考えていると思います。その上でどうやったら国際社会で評価されるかということを考えなければなりません。21世紀になって世界中が目をつけているのは日本が超高齢化社会をどう乗り切るのだろうかということです。政治、保険制度、医療体制、老人ホームなどの課題を見事に解決して高齢社会の模範になりたいものです。もう一つは、日本人の優秀な頭脳と技術を使って地球環境の保護と新エネルギーの開発をして世界に貢献することだと思えます。

「笑いに勝る政策なし」

最後に、私は国民すべてにユーモア教育をしたほうが良いと考えています。ユーモアの本質は相手の気持ちを大切にしようとする愛と思いやりの心です。「笑いに勝る政策なし」をモットーに共生社会の議会人として品格を磨きがんばりましょう。

前面に出し、自分が欲せざることを他人に施す無かれという精神、すなわち、「和をもって尊となす」の精神で国際平和を実現する道を歩むべきです。民主党は、国民運動を大いに起こすべきです。期待を大いに起こすべきです。期

大島章宏 市民情報交換室

経済産業委員会や内閣委員会での最近の委員会質疑活動などの内容を、私のホームページ (www.oohata.com) に掲載しています。どうぞご覧下さい。(日立グループ議員団ホームページからもリンクしています)

市役所の窓口を集約し「総合窓口」を開設

市政だより



山中 輝夫
ひたちなか市議会議員
(東海支部)

市役所には窓口がたくさんあり、転入・転出などの用事で訪れた市民がいくつもの窓口を回らなければ全ての手続きが完了できませんでした。ひたちなか市の総合窓口は、これらの手続きをできるだけ1カ所で行えるように市民課窓口で取扱える手続きを増やすとともに、市民の方の利用頻度の高い福祉関係の窓口を本庁舎1階（市民ホール）に集約し、利便性を図るものです。以下に概要を紹介します。

ワンフロアー、ワンストップサービスの理念の下に、窓口の数を増やすとともに、一部の窓口を除き座ったままで手続きを行えるローカウンスターの設置及び申請書の記入方法や窓口案内等のお手伝いをするフロアアドバイザーの配置、また、プライバシーの保護のために

日新クラブ議員団の提言でより便利で快適に

利用しやすくなった窓口



カウンターに間仕切りを設置するなど特徴点です。5月15日からのスタートとなり、市民サービスの向上に大いに期待しています。これは日立グループ議員で構成する日新クラブ議員団が平成16年9月定例会での一般質問の中で取りあげ提言したものです。これからも市民の皆様からのご意見、ご要望を政策に転換し提言していきます。

市政だより

「かみね動物園」の魅力づくりがスタート



二瓶 隆
日立市議会議員
(日立電線・電線)

新しい発想を取り入れる提案が採用される

日立市に動物園があることをご存知でしょうか？市の中心部に位置する「かみね公園」の一角にある「かみね動物園」です。昭和32年にオープンし、北関東随一の動物園として72種類479点の動物が飼育されています。

しかし、入園者数は、昭和63年度の43万人をピークに減少が続き、平成17年度にはピーク時の6割の27万人にまで落ち込み寂しい状況になっています。少子化やレジャーの多様化等の影響によるところもあると思いますが、北海道の旭山動物園の入園者数は平成8年度の26万人を底に平成17年度には200万人と急増しています。

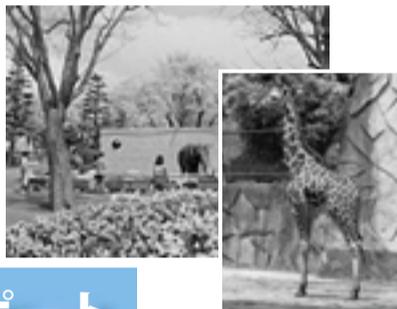
かみね動物園は、動物を檻のような獣舎に入れて展示するという旧態のものであるのに対し、旭山動物園は動物のもつ本来の習性や生き生きとした動きを目前でみせるという新しい発想によるものです。

私は、一般質問において動物園の魅力づくりのためのリニューアルをしていく必要性を、具体的な提案を含めて提言してきましたが、本年度を初年度とする5カ

年計画で取り組みをいくことになりました。レクリエーションの場としての真に魅力的な動物園にしていくべく本事業を見守っていききたいと思っています。

教育の場、自然保護の場として真に魅力的な動物園にしていくべく本事業を見守っていききたいと思っています。

教育の場、自然保護の場として真に魅力的な動物園にしていくべく本事業を見守っていききたいと思っています。



緑も充実した動物園

議員活動レポート

日立グループ議員団所属議員の市町村での取り組みを紹介します

「はだの丹沢水無川マラソン大会」を開催

たんざわみなせ

ゲストの高野進さん



マラソンを楽しむ参加者の方々

昨年12月、秦野市初の公式マラソン「はだの丹沢水無川（たんざわみなせ）マラソン大会」が盛大に開催されました。

市政だより



山口 金光
秦野市議会議員
(神奈川支部)

北海道から九州にかけて全国から4,106名の市民ランナーが参加。秦野市中央運動公園を発着地点に5km、10km、ハーフの3種目に健脚を競い合いました。ゲストランナーとして東海大学の高野進コーチ（元オリピック400m日本代表）から県内陸上界の有名選手が出場し大会に花を添えたほか、350名を超える市民ボランティア、市職員270名、警察官106名が大会を支えました。

この大会は市制施行50周年記念事業として開催されたものです。陸上競技をシンボルスポーツにする提案、実現に至る

陸上競技をシンボルスポーツにする提案、実現に至る

市政だより

民営化も視野に入れ健全経営を目指す



渡辺 宏行
胎内市議会議員
(日立産機・中条)



出稼ぎ対策として建設された胎内スキー場

胎内市の大きな課題は、旧黒川村の胎内高原を中心とした観光政策を、今後どのように推進していくかであります。

胎内市は、昨年9月に黒川村と中条町が合併し誕生しました。

黒川村の観光開発は、昭和41年に村の出稼ぎ対策として胎内スキー場を建設したのが始まりです。その後、村民の雇用を確保するためにホテルなどの宿泊施設やレジャー・スポーツ施設、ゴルフ場などが次々と建設されました。

今回の合併協議で争点となったのは、ゴルフ場を除く、この観光施設はほとんどが村

営であることです。近年、利用者も減少し経営的にも厳しく新市の財政に及ぼす影響が大きいため、協議の場でも経営の見直しに対しての厳しい議論がされました。結果的には、黒川村としての観光開発に取組んだ歴史的経緯を考慮し、当面の間現状維持で運営していくことが確認されました。

今後は、市民の雇用確保も重要ですが、採算面も考慮した健全経営を基本に、民営化も視野に入れた経営方法の見直しや利用者拡大に向けた取り組みなどを積極的に行なっていかねばならないと考えます。

観光政策の推進が今後の課題